



岡崎市立六ツ美西部小学校 校長通信

校長室の窓から

～校訓 人に優しく 自分に強く～

10号

令和元年12月6日

六ツ美西部小学校長
山本 則夫

人権集会を終えて

「こうちょうせんせいの手つめたいね。わたしの手ぶくろかしてあげる。」朝、正門で子供たちを迎えているときの出来事です。一人の女の子が自分のしている小さな手袋をとり、私の手にはめてくれました。優しい子供の気遣いに心まで温かくなりました。



12月3日、人権週間にあわせ、全校で人権集会を行いました。

「友達と笑顔でいるために」をテーマに各クラスが考えためあてを発表しました。私は、朝日新聞で掲載され反響を呼んだタレントの春名風花さん（当時小学校6年生）のメッセージの一部を紹介しました。

春名さんは、当時、芸能活動を続ける中、SNSで誹謗中傷を受け、立ち直れないほど傷つきました。しかし、彼女は、強い気持ちでいじめに立ち向かうメッセージを発信し続けました。私が注目したいのは、そんな彼女の強い気持ちだけでなく、自分の親への思いや、いじめている子の親の視点にまで思いを巡らせている点です。

彼女は、いじめをしている子へこう訴えています。「いじめは、いじめる子に想像力をもってもらってしか止まらない。」いじめられている子の親がどんな思いでその子を育ててきたか。また、自分を愛おしく育ててきた親が、他人をいじめている我が子を見てどう思うのか。子供の言葉で綴られたメッセージは、強く私の心に残りました。裏面に春名風花さんの書いた原文を載せます。お子さんの学年に合わせて分かりやすい言葉で読み聞かせていただければ幸いです。

本校には、そっと私に手袋をはめてくれた女の子のように思いやりをもった優しい子がたくさんいます。頭ではわかっているけど行動にあらわすことのできない恥ずかしがり屋の子もいます。また、友達の優しさに気付かず、知らず知らずのうちに友達を傷つけてしまうこともあります。そんなとき、私たち周りの大人は、子供の心に語りかけ、正しく導いてやらねばなりません。

今後も、本校では「命の教育」を教育の柱の一つとして、自分やまわりの人の命を大切にし、人を思いやることのできる優しい子供の育成をめざしていきます。

君、想像したことある？

ぼくは小学6年生です。タレントだけど、ふつうの女の子です。今から書く言葉は君には届かないかもしれない。だって、いじめてる子は、自分がいじめっ子だなんて思っていないから。

いじめがばれた時、いじめっ子が口をそろえて「じぶんはいじめてない」って言うのは、大人が言う保身（ほしん）のためだけじゃなく、その子の正直な気持ちじゃないかなと思います。ただ遊んでいるだけなんだよね。自分より弱いおもちちゃで。相手を人間だと思ってたら、いじめなんてできないよね。感情のおもむくままに、醜悪（しゅうあく）なゲームで遊んでいるんだもんね。

ぼくもツイッターでよく死ねとか消えろとかブスとかウザいとか言われます。顔が見えないから体は傷つかないけど、匿名（とくめい）なぶん、言葉のナイフは鋭（するど）いです。ぼくだけでなく、時には家族を傷つけられることもある。涙が出ないくらい苦しくて、死にたくなる日もあります。

けれどぼくは、ぼくがいくら泣こうが、本当に自殺しようが、その人たちが何も感じないことを知っている。いじめられた子が苦しんで、泣いて、死んでも、いじめた子は変わらず明日も笑ってご飯を食べる。いじめは、いじめた人には「どうでもいいこと」なんです。いじめを止めるのは、残念ながらいじめられた子の死ではありません。その子が死んでも、また他の子でいじめは続く。いじめは、いじめる子に想像力（そうぞうりょく）を持ってもらうことでしか止まらない。

いじめゲームをしている君へ

あのね。キモい死ねと連日ネットで言われるぼくが生まれた日、パパとママはうれしくて、命にかえても守りたいと思って、ぼくがかわいくて、すごく泣いたらしいですよ。この子に出会うために生きてきたんだって思えるくらい幸せだったんだって。それは、ぼくが生意気（なまいき）になった今でも変わらないそうですよ。

想像してください。君があざ笑った子がはじめて立った日、はじめて歩いた日、はじめて笑った日、うれしくて泣いたり笑ったりした人たちの姿を。君がキモいウザいと思った人を、世界中の誰（だれ）よりも、じぶんの命にかえても、愛している人たちのことを。

そして、その人たちと同じように笑ったり泣いたりして君を育ててきた、君のお父さんやお母さんが、今の君を見てどう思うのか。

それは、君のちっぽけな優越感（ゆうえつかん）と引き換（か）えに失ってもいいものなのか。いま一度、考えてみてください。（はるな・ふうか＝タレント）

【2012年08月16日 朝日新聞デジタル】